

保険金支払いの実態調査について

当団で過去 10 年間（平成 27 年度～令和 6 年度）の保険金支払いの実態調査を行った結果、当団が負担額を把握している契約者 702 件のうち、契約者が 5,000 万円以上負担した事例は 13 件、元請と下請との間で契約者以外が 5,000 万円以上負担した事例は 9 件あり、その最高額は 1 億 3,769 万円で、契約者の負担額が 1 億円を突破したのは令和 2 年度からで、被災者は障害 1 級(年令 42 才)、支払った契約者の完工高は 9.7 億円で 4,000 万円の加入でした。

また関係請負事業所の示談金合計額が 5,000 万円を超える事例も 282 件中 47 件と全体の 16.7%を占めており災害発生時に被災者 1 人当たりを支払われた金額は平均 2,786 万円となっています。

示談金の水準は合計額でも 1 社の負担額でも特に令和に入ってから急伸びしています。

このような状況を踏まえて当団では極力建設共済保険の補償額で賄えるよう令和 8 年度から保険金区分に 7,000 万円と 6,000 万円を新設する改正を行っています。

○当制度保険金支払いの示談金額等（H27～R6年度支払い）

< 等級別示談件数等分布 >

給付事由	件数	示談金額 10年平均
死亡	191	2,965万円
傷病1～3級	10	3,621万円
障害1～3級	43	2,889万円
障害4～5級	16	1,570万円
障害6～7級	22	1,542万円
全 体	282	2,786万円

※ 示談確認支払いを抽出

< 示談金額合計の分布 >

示談金額合計 (関係請負事業所の合計)	件数
1億円以上	4
5,000～9,999万円	43
4,000～4,999万円	26
3,000～3,999万円	37
2,000～2,999万円	47
2,000万円未満	125
合 計	282

< 契約者負担額の分布 >

契約者負担額	件数
1億円以上(1億3,769万円)	1
5,000～9,999万円	7
4,000～4,999万円	17
3,000～3,999万円	17
2,000～2,999万円	47
2,000万円未満	193
合 計	282

○示談金額平均の推移

< 示談金額の10年平均の推移 >

集計期間 (年度)	示談金額 10年平均	前平均 との差
H21～H30	2,380万円	—
H22～R1	2,460万円	+80万円
H23～R2	2,442万円	-18万円
H24～R3	2,540万円	+98万円
H25～R4	2,710万円	+170万円
H26～R5	2,782万円	+72万円
H27～R6	2,786万円	+4万円

○完成工事高別の示談金額と契約者負担最高額

< 示談金額等：H27～R6年度支払い >

< 契約者負担額 >

完成工事高 (JV込み)	件数	関係請負事業所示談金額		支払 総件数	契約者から 被災者への 支払最高額
		平均	最高額		
100億円以上	27	4,059万円	9,330万円	38	4,700万円
50～100億円未満	23	3,616万円	8,500万円	31	8,200万円
10～50億円未満	84	2,861万円	12,000万円	161	11,700万円
5～10億円未満	47	3,374万円	13,769万円	103	13,769万円
2～5億円未満	64	2,298万円	9,359万円	178	4,296万円
2億円未満	37	1,271万円	4,150万円	191	5,000万円
全 体	282	2,786万円	13,769万円	702	13,769万円